

「農業農村地域における情報利活用の未来図Ⅱ」 —情報利活用で繋げる消費者と生産者—

中川 翔太
(NAKAGAWA Shota)

I. はじめに

現在、日本の農業には、農業従事者数と新規就農者数の減少と農業従事者の平均年齢が令和2年には67.8歳という高齢化の問題が年々深刻化している。さらに、高齢化や後継者不足の問題から農業をやめる人が増え、その影響から耕作放棄地の増加の問題も起きている。

それらの問題を踏まえ、私たちは、情報の利活用により農作業の効率化を図り問題の解決を目指すのではなく、情報の利活用によって、多くの人に農業農村に興味関心を持ってもらい、農業体験や農業求人、農地リース等を活用し、農業従事者数や農地の利用を増やすことで問題の解決を目指すことを目的として、今回の未来図の作成を行った。

II. 概要

未来図の概要は、まず、農業求人や農業体験等のイベント、農地リース、農業に関するクラウドファンディングなどの情報を、消費者が知りたいであろう生産者の情報や農薬等を使用しているかの情報、有機農法であるかなどの情報、その農作物の栄養価や特徴、購入した農作物を使用した料理のレシピ等の情報とともに掲載したウェブサイトやアプリを作成する。

次に、それらに繋がるQRコードを農作物のラベルに掲示し販売する。

そして、このQRコードを消費者に読み取ってもらい、上記の情報を取得してもらう。これらを行うことで、生産者と消費者の間で農業と農村の情報を発信する農村情報ネットワークを形成し、消費者の農業への関心を高め、農業へ関心を持ってもらうことで、農業体験や農地リースを活用して、農業へと参加するように促す。

このようにして、消費者を農業へ参加させることで、農業従事者数と農地の利用を増加させるというものである。

III. 予想される効果

まず初めに、生産者への効果として、農業求人による短期のアルバイトによる収穫期等の繁忙期の人手不足の解消や農業体験等のイベントの参加費や農地リースによる農地の貸し出し料による収益の増加が見込まれる。また、栄養価や特徴の情報も掲載することで、農家ごとのブランド化や差別化が起きることが見込まれる。

次に、消費者への効果は、購入した農作物の情報を一つのウェブサイトで知ることができることや、生産者や農薬の使用についての情報を掲示することによって、農作物の安全の確保されることが見込まれる。

そして、日本の農業への効果は、消費者の農業に対する関心の増加が考えられ、関心の増加から、農地リースを活用して副業的に農業を行う人や、農業を本格的に行う人も増えるであろうと考えられ、農業従事者数の増加と農地の利用増加による耕作放棄地の減少が見込まれる。

IV. 予想される課題

予想される課題として、実際にこの未来図が実現した時に、農業に興味のない消費者がどれくらい利用するのかということや、どれぐらいの消費者がこのウェブサイトを通じて農業に参加するのかということがある。これらに対して、なんらかのポイント制度のような消費者に情報以外にもメリットとなるコンテンツを設け、ウェブサイトに掲載されている情報に興味が無くても、そのメリットのために利用するように促し、まずは情報に触れてもらうこと、そして、農業に関わりを持つことが必要だと考えた。



- 農作物の情報や農業求人、農地リース等の情報を掲載したウェブサイトやアプリを作成
- QRコードを農作物のラベルに表示し、消費者へと発信する。



- 農作物を購入した消費者がQRコードを読み取り、作成されたウェブサイトから農作物の情報や近隣の農村の情報を取得する。



- 情報を見た消費者が農業へと参加する
- 農業へと参加する消費者の増加により、現在の農業の問題の解決へ！